

---

# ありがとうポチ

李祢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ありがとうポチ

### 【Zコード】

Z8303G

### 【作者名】

李祢

### 【あらすじ】

山登りで見つけた、子犬のポチと、飼い主怜実さんの物語。

(前書き)

感動する物語です。ぜひ、読んでください。

## 出会い

1998年春、山登りをしていた時に、一匹の子犬が居た。その子は、まだ生まれて、生後8ヶ月の子犬だった。犬種は、柴犬で捨て犬だった。私は、その子犬を、家に連れて行き名前を付けることにした。

「うーん。 そうだねー・・・。 男の子だから、ポチにしよう。」

そして、子犬の名前は、ポチに決まった。さつそくポチと一緒に、散歩に出かけた。ポチは、散歩に行くのが怖いらしく、全然進もうとしない。

「おや?? どうしたんだい?? 行きたくないのかい??」

と、私は言った。

すると、後ろから、

「あれれ? 神崎伶実さんじゃないかい?」

そう言われ、振り返ると、そこには、克次王さんがいた。

「王さん! 久しぶりです。」

「久しぶり。伶実さん。あれ? 犬飼つたのですか?」

「いえ。この間山登りしていたら、この子がいたんです。捨て犬でしたから、かわいそうでしたので、飼うことに決めたんです。」

「そうですか。この子伶実さんに飼われて嬉しそうですね。いきいきしてますよ。」

など、話が続いた。

### 偉いねポチ

お座りを覚えたころ、他の芸も覚えさせるために、いろいろ考えていた。すると、旦那が、

「伶実。ポチに、おてや、おかわりとか教えたなら良いんじゃないかな?」

私は、ポチを呼んで、

「ポチ。おいで。」

すると、ポチは、急いで私のところに来た。

「良いかいポチ。おまえにはおでを、覚えてもうひとつ。」

と、私は、言った。

ポチは、早くその芸を、教えて欲しそうに、しつぽを、振った。

「ポチ、おでは、左手を出すんだよ。」

と良いポチの左手を、私の手の平にのせた。

「ポチ、おで！」

すると何と、ポチは、おでを、した。

偉いねポチ。

ありがとうポチ

2002年秋、ポチは、癌で亡くなつた。初めて出会つてから、たつた、3年だつた。行き成りの事に、私は、信じられなかつた。私は、

「ポチ・・・。何で私より先に行つちやうのよ。ねービジしてみ。」

・。・。

て、良いながら泣いた。今までの思い出が、次々とよみがつてくる。・。・。芸を、覚えて、ほめてあげた時のあの、嬉しそうな顔。今でも、夢に出てそうな、思い出ばかり。

ありがとうポチ。本当にありがとうね。

2006年8月3日



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8303g/>

---

ありがとうポチ

2010年10月10日03時39分発行